

Ⅱ 津軽海峡漁場細密調査

I 調査目的

津軽海峡の水深・底質・海底地形を調査し、人工魚礁設置・増殖対策・漁業操業に資する。

Ⅱ 調査内容

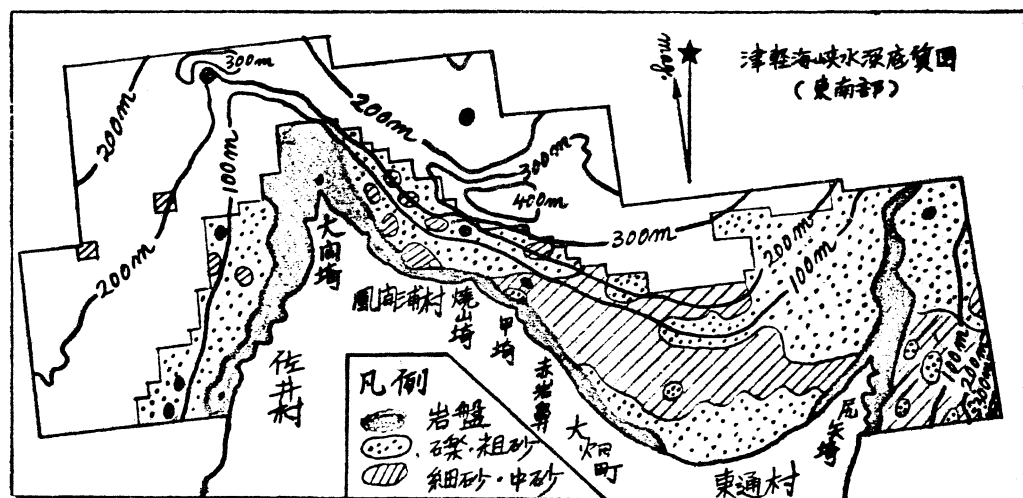
1. 調査期間 昭和46年7月1日から8月31日まで
2. 調査海域 津軽海峡東南部
3. 調査員 調査課長 山形 実
技師 田村 真通
4. 調査船 青鵬丸 19.94トン 170馬力
船長 中川武光ほか5名
5. 調査項目 水深・底質・海底地形
6. 調査方法

調査海域を磁針方位東西南北1,000m柵目に区画し、その分画線上を航走し、魚探により水深・海底地形を調べ、2,000mごとにて径15cmの漏斗型探泥器を用いて底質を採取して調べた。

Ⅲ 調査結果

調査海域の水深底質図は第1図のとおりである。この水深底質図は縮尺5万分の1、等深線は水深100mまでは10mごと、100m以深は20mごとに引き、底質は岩盤をだいたい色、礫・粗砂をあい色、中砂・細砂を黄色で色分けして印刷し、関係機関へ配付した。

第1図 津軽海峡東南部水深底質図



IV 調査の成果および今後の課題

1. 調査の成果

調査海域の水深・底質・海底地形についての知見が得られた。水深底質図の関係機関への配付により、人工魚礁設置・増殖対策・漁業操業に役立つ。

2. 今後の課題

この海域の調査をもって、県下沿岸全域の調査が完了した。将来もしもっときめ細かに水深・底質・海底地形を調査するならば、そのときには、船位決定・測深・底質採取に用いる諸器具は、従来使用のものより勝れたものを用いるべきである。